

へえ、あんたが今回の
依頼人ってわけ？

もう一回言うけど、私に仕事頼むなら
ちゃんと準備してこないとダメよ。

特に、難易度高めで時間制限
付きの依頼ならね！？



ん？心配しなくてもそのくらい
分かってるって？

じゃあ、まず報酬見せてから
話進めようか？

そのバッグに入ってるの
それでしょ？



うわっ！ほんとに準備して
きたんだ！

これだけあれば十分だよ。
ってか、逆に多すぎじゃない？



時間制限の補償で追加料金
たっぷり入れたって？

心配しないで、心配しないで。
時間制限なんてほんと気にしなくて
いいから。

このニコルを舐めないでよ。

金に関することなら、
信頼が最優先なんだから。



え、なに？ 時間制限で失敗したら
この倍の違約金を払うって？

まあ、いいよ。どうせ失敗する
余地なんてない依頼だし。

この金、しっかり守るときだよ。



今のウチの財政じゃ、違約金なんて
払えるわけないよね！

できるだけ早く依頼終
わらせなきゃ！

難易度は思ったより簡単
そうだから、さっさと！



ん？？なに、こんなのも用意して
くれたの？センスいいじゃん！

とりあえずありがたく
いただくよ。

あ、このドリンク代、依頼料に
含まれてないよね？

それくらいの金用意してるなら
当然でしょ？



こんな大金でその難易度の
依頼って……

なんか怪しいけど、こんな美味しい
話蹴るわけにはいかないよね。

ひん
ひん

だって最近、兎穴の財政もちよっと
ヤバいんだから……



じゃ、今日の夜に依頼開始って
ことでいいよね？

あ、それと宿代もそっちにツケとくから。
依頼の追加費用は勘弁してよ。

報告は明日の朝早くにするから、
時間通りにその金持ってきてなよ。



久々の大当たり依頼だね。

世の中にこんな美味しい依頼
ばかりだったらいいのに。

この金で前の借金返せるよ。

じゃ、依頼の時間まで宿でちょっと
休もうかな？



ニコルに貸した宿のドアを開けると、無防備にベッドに横たわるニコルの姿が目に入った。

こんな単純な手に引っかかるなんて…。

くー
んかー

噂通り、金に関することなら前後の見境なく突き進む性格らしい。

それのおかげで、こちらは目的を果たし、おまけに金まで手に入られることになったが。



ドリンクに混ぜた薬がよく効いたのか、ニコルは腕を無造作に
投げ出したまま、大きく口を開けて眠っていた。

彼女の豊かな胸は、呼吸のたびに規則的に上下したが、
その動きを除けば微動だにしないかった。

不気味なほど静かな部屋に響くのは、彼女の呼吸音だけだった。



静かに呼吸音を響かせる彼女の両目をそっとこじ開けてみた。

充血した白目を剥き出しにしたニコルのエメラルド色の瞳は、
焦点を失ったまま虚空をぼんやりと見つめていた。

しばらくその目を開いたままにしていたが、彼女は身体をわずかに
震わせた以外、なおも穏やかな呼吸音を響かせ、心地よさそうに眠り続けていた。



彼女の意識が完全に途絶えているのを確認した瞬間、以前から気になっていた
その豊かな胸に自然と目が引き寄せられた。

んがー

く

ぴったりと張りつめたティシャツをそっとたくし上げると、
まるで封じられていた果実が殻を破るように、
ふたつの大きな胸が弾けるように現れた。

布を引き上げてもその形は崩れず、彼女の胸は
天を仰ぐように凛とそびえていた。

魂を奪うほどに美しいその胸の輪郭は、ただ見つめるだけで
心を揺さぶった。

ゴッゴッ

彼女の意識が完全に途絶えているのを確認した瞬間、以前から気になっていたその豊かな胸に自然と目が引き寄せられた。

んがー

く

ぴったりと張りつめたティシャツをそっとたくし上げると、まるで封じられていた果実が殻を破るように、ふたつの大きな胸が弾けるように現れた。

布を引き上げてもその形は崩れず、彼女の胸は天を仰ぐように凜とそびえていた。

魂を奪うほどに美しいその胸の輪郭は、ただ見つめるだけで心を揺さぶった。

フゥィィィィ

彼女の意識が完全に途絶えているのを確認した瞬間、以前から気になっていたその豊かな胸に自然と目が引き寄せられた。

んがー

く

ぴったりと張りつめたティシャツをそっとたくし上げると、まるで封じられていた果実が殻を破るように、ふたつの大きな胸が弾けるように現れた。

布を引き上げてもその形は崩れず、彼女の胸は天を仰ぐように凛とそびえていた。

魂を奪うほどに美しいその胸の輪郭は、ただ見つめるだけで心を揺さぶった。

ゴッゴッ

彼女の意識が完全に途絶えているのを確認した瞬間、以前から気になっていたその豊かな胸に自然と目が引き寄せられた。

んがー

く

ぴったりと張りつめたティシャツをそっとたくし上げると、まるで封じられていた果実が殻を破るように、ふたつの大きな胸が弾けるように現れた。

布を引き上げてもその形は崩れず、彼女の胸は天を仰ぐように凛とそびえていた。

魂を奪うほどに美しいその胸の輪郭は、ただ見つめるだけで心を揺さぶった。

ゴッゴッ

彼女はこの依頼そのものが偽りのもので、実は自分自身がその標的だと夢にも思っていないだろう。

私もまた、ロープネットで匿名の依頼人から仕事を受けた身だ。

標的であるニコルについて、異様に詳細な情報とともに、この映像を撮影してほしいという依頼だった。

映像の内容は自由だが、彼女の目を頻繁に開けるようにとの指示だけがあった。



正直、得られる報酬に比べあまりに簡単すぎる気がして疑わしい依頼ではあったが、拒めない甘美な内容に結局受け入れてしまった。

何より、名高いニコルの身体を自由にできるというのが、どんな報酬よりも価値ある提案だったのだ。

実際に触れてみたニコルの身体は、他の平凡な女性たちとは一線を画す、弾力と柔らかさを備えていた。



先ほど無理やり目をこじ開けた影響か、ニコルのまぶたがわずかに持ち上がり、彼女の瞳が覗き始めた。

がー

がー

もしかしたら薬による筋肉の弛緩かもしれないが、重要なのはそこではなかった。

この姿勢が、ちょうど彼女の頭元に立つ私にとって、絶妙に都合の良いものだったからだ。



私のほうを向いて大きく口を開けている彼女の唇を
そっとさらに開き、涎を流し込んだ。

トロオ…♡

んかー

かー

単純な行為だったが、それでもこの瞬間、彼女を支配しているという
感覚が全身を駆け巡り、鳥肌が立つような昂揚を覚えた。



半分は戯れに彼女の首をつかんで少し力を与えてみた。

ビクン!

わはっ!

お、

ごほ、

予想通り、彼女の顔が徐々に紅潮し、舌がわずかに突き出て、半開きのまぶたの間から瞳がゆっくりと上向くのが見え始めた。

要するに、この状態なら彼女のすべてが私の手に委ねられているということだ。

それは彼女に対する完全な支配を意味していた。



彼女のまぶたにテープを貼り、強制的に開いた状態を保ってみた。

かー

かー

やはりこの程度では彼女の眠りを覚ますことはできないようだった。

そして、瞳は案の定、極端に上を向き、瞳孔がほとんど見えないほどだった。

ならば、ここでもう一度彼女の首を軽く握ったなら、彼女の瞳はどのように反応するだろうか？



彼女の瞳がわずかに震え始め、やがて次第に上へと上がり、
ついに瞳孔がまったく見えなくなった。

かはっ...

けっ...

ぎゃ

テープで無理やりまぶたを開いたままにしていたこともあるが、
目の前で人の瞳の生々しい動きを観察すると、何か新鮮な感覚が
湧き上がった。

依頼人の目的を少し理解できたような気がした。



その状態のまま私の物を取り出してニゴールの鼻の前に持っていた。

まだ微動もせず、唾を流しながら寝ている彼女の顔を見ると勃起が解けるのはこんなに硬くなるだけだった。

彼女の小さな口が私のものを完全に抱くことができるか疑問に思いましたが、今はそれはあまり関係ありませんでした。

かー

んかー



予想通り、彼女の口の中はあまりに狭すぎて、私のちんぽを
食道の奥深くまで挿入する結果となった。

少し反射的な抵抗はあるようだったが、最初の違和感を
除いては、意外と私のちんぽが簡単に進んだ。

それと同時に、大きく上を向いた彼女の瞳が今回は下に
降りてきて、まるで自分の口の中で私のちんぽが挿入して
いるのを眺めているかのようにだった。

当然ながら、今の彼女には見えるわけがなかった。



食道の締めつけるような感触を味わいながら、
一方の手で彼女の首をもう一度軽くつかんでみた。

手のひらのすぐ下で私のちんぽが行き来する
動きがそのまま伝わってきた。

そのまま力を加えると、その感覚はまるで高級な
オナホーを強く握るような趣を帯びた。

事実、文字通り今の彼女の口は私の専用のオナホーそのものだった。

ごほうい

がっい

ビュルルッ♡

あ、

彼女の口の中で射精を終えた後、食道の奥まで届かず残った精液が口内に溜まっていた。

んん

んん

それと同時に、彼女の呼吸音が聞こえなくなっていた。

驚いて彼女の胸を見ると、上下に揺れているのが確認できた。

おそらく、口内の精液が呼吸を妨げていたのだろう。



とりあえず彼女の口内に溜まった精液をどうにかしようとして、再び彼女の首に手を置いて握ってみた。

かっ…

かはっ

ビクンッ

お、

その圧力によって、口内の精液がわずかに横に流れ出るのが見えた。

その間も、彼女をまるで道具のように操る自分の姿に、妙にぞくぞくする感覚が湧いた。



その瞬間、何か風が抜けるような音がして、
彼女が小さく咳き込み始めた。

ガッ... げかッ

お、

ビクニク

それによって、彼女の呼吸を妨げていた精液が
一気に外へと流れ出たようだった。

その後、彼女は再び穏やかな呼吸を取り戻し始めた。



ただ、その咳の影響か、彼女の両方の鼻孔にも
精液が飛び散るようになった。

姿勢のせいか、食道にあった精液が逆流して
溢れ出したようだった。

その光景はあまりにも現実離れした異様な姿で、
奇妙な感覚を呼び起こした。



彼女の目に貼ったテープはそのままに、彼女の傍らに移動し、
彼女の手私に私のちんぽを握らせた。

その温かく柔らかくもどこか確かな感触は、
それだけで絶頂に達しそうだった。

案の定、間もなく射精をニコルの身体に施した。





次に、依頼とは関係なく、ひそかに私の最終目的だった彼女の下半身に目が引き寄せられた。

いつもズボンとは名ばかりの短いパンツで、張りのある太ももを誇示するニコルの最も秘められた場所を直接味わえる瞬間だった。

普段、ちらりと見えていた彼女の下着も、この姿勢ではあまりにも鮮明に映る構図だった。



意外にも、彼女のイメージとは裏腹に、可愛らしいハート模様の下着だった。

しかし、布の面積は極端に少なく、これが本当に下着の役割を果たせるのか疑問に思えた。

そもそも普段からあんな短い丈のパンツを履いているのだから、当然といえば当然のサイズの下着だったのだが。



彼女の大切な場所を守る一枚の薄い下着を容赦なく下ろすと、
すぐに彼女のまんこが露わになった。

予想以上に濃いピンク色の陰毛がそこを軽く覆っていた。

その陰毛の形を見ると、普段から丁寧に手入れ
されているようだった。

その整った姿は、実に美しく形作られていた。

そつと彼女の恥骨の上に私のちんぽを近づけると、ざらつく陰毛の感触と柔らかな太ももの滑らかな肌触りが、ふたたび射精の衝動を呼び起こした。

何よりも、この異常な状況で無垢に眠る彼女の姿を見ると、内に秘めた何かがねじれるような感覚が湧き、言葉にできない快感が押し寄せた。

おそらく、匿名の依頼人はこのような場面を望んでいたのだろう。



耐えきれず、三度目の射精を彼女の下腹の上に施した。

彼女がわずかに身じろぎするたびに、私のちんぼの背後に感じる彼女の下腹の熱い感触が、射精を誘発する役割を果たしていた。

適度に筋肉のついた彼女の下腹は、それ自体が極上のオナホーそのものだった。

トドナー

それでもなお硬くそびえる私のちんぽを、最終的にニコルの内にそっと挿入した。

くちゅっ♡

予想を遥かに超えて、彼女の内は熱くしっとり潤い、まるで誘うような滑らかな湿り気が漂っていた。

そのおかげで、ほとんど抵抗なく、流れるように進むその様子に、どこか征服のような感覚がわずかに湧いた。

たった少し彼女の身体に触れただけで、しかも眠っている状態にもかかわらず、こんな官能的な状態だったのだ。

まるで片手で掴めそうな彼女の細い腰を強く握り、力強くピストンすると、早くも四度目の射精が精液となって脈動しながら湧き上がるのが感じられた。

その最中、彼女の身体は実に均整が取れ、美しかった。

ニコルが普段から身体のラインを強調する服を着るのも、むしろ当然だと感じられた。

要するに、彼女自身がこの美しい身体の魅力を十分に理解しているのだろう。

行為を終え、改めて彼女の睡眠状態を確認した。

すでに四度も彼女の身体に精液が浴せられたというのに、
彼女はなおも自分だけの夢の世界から抜け出せない姿だった。

このままでは、依頼人の計画通り、間違いなく依頼の
制限時間を超えるだろう。

彼女は知らぬ間に身体を委ね、さらには莫大な
借金を背負うことになるのだ。

ト……ト

後始末のために彼女の服を一つずつ着せる途中、
何か違和感を覚え、彼女の下半身を見た。

そこにはびしょ濡れになった下着とベッドシートがあった。

薬の効果か、それとも直前の行為の結果かはわからないが、
いずれにせよ彼女は確かに尿を漏らしていた。

いつも自信に満ちたニコルのイメージとはまるで合わないその姿に、
得体の知れないぞくぞくする感覚が背筋を這った。

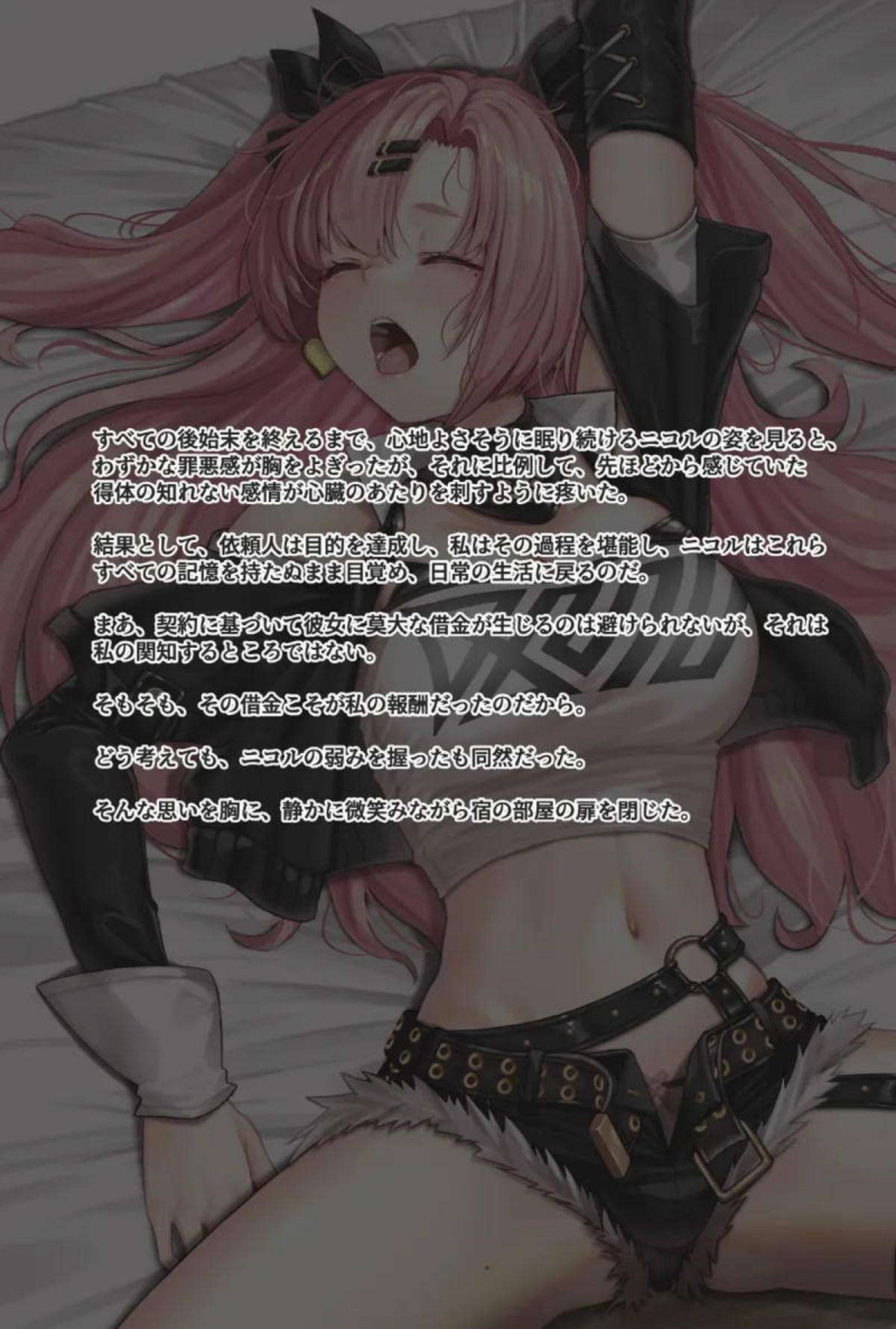
下着ハイ

他のことはさておき、この予想外の出来事は今さら片付けられず、そのままにしておくことにした。

朝、彼女が目覚めたときのこの事態に対する反応が、多少なりとも期待される理由もあった。

果たしてあのニコルが、こうした自身の予期せぬ状況（実際には私の仕業だが）にどう反応するのか、観察することは一つの愉しみになるだろう。





すべての後始末を終えるまで、心地よさそうに眠り続けるニコルの姿を見ると、わずかな罪悪感が胸をよぎったが、それに比例して、先ほどから感じていた得体の知れない感情が心臓のあたりを刺すように疼いた。

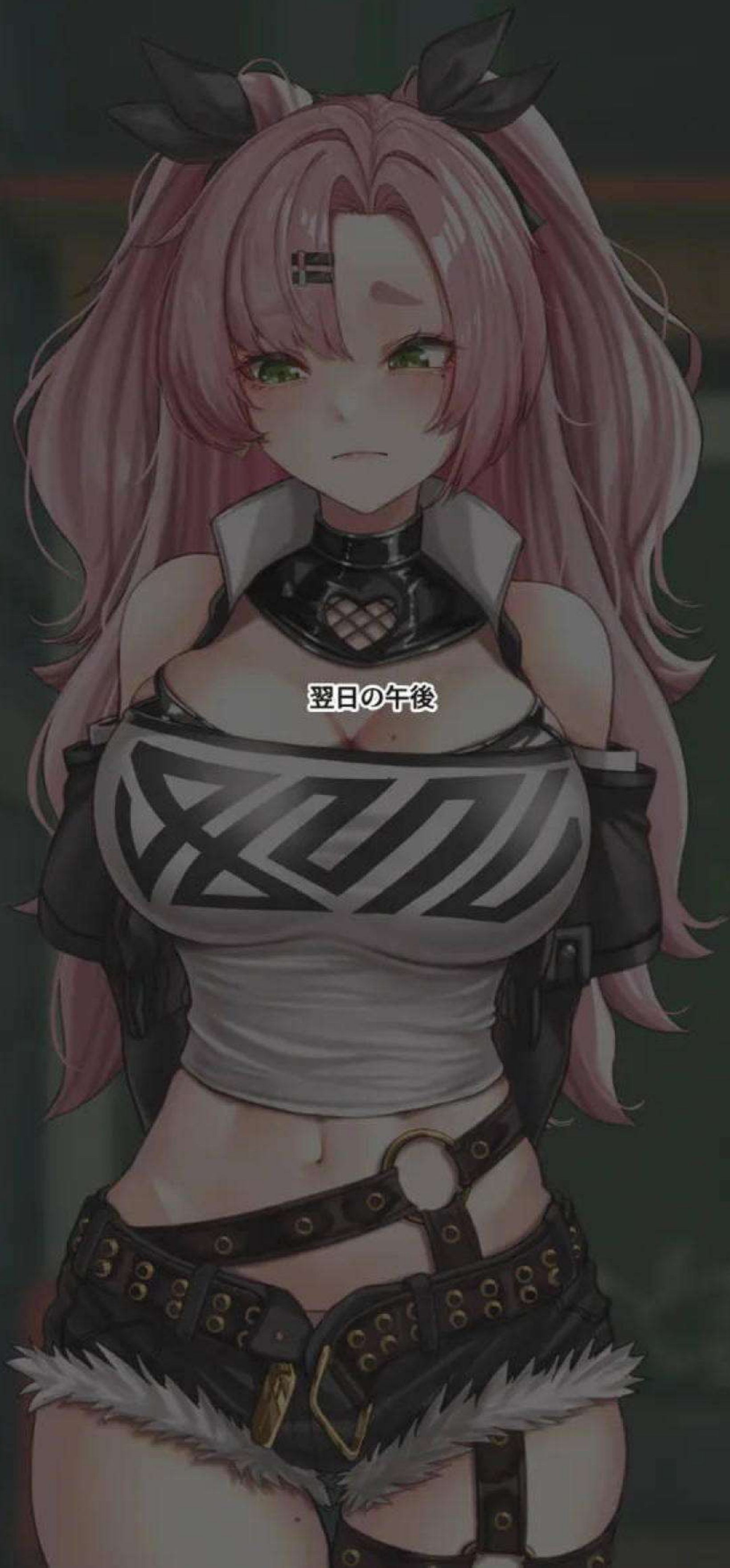
結果として、依頼人は目的を達成し、私はその過程を堪能し、ニコルはこれらすべての記憶を持たぬまま目覚め、日常の生活に戻るのだ。

まあ、契約に基づいて彼女に莫大な借金が生じるのは避けられないが、それは私の関知するところではない。

そもそも、その借金こそが私の報酬だったのだから。

どう考えても、ニコルの弱みを握ったも同然だった。

そんな思いを胸に、静かに微笑みながら宿の部屋の扉を閉じた。



翌日の午後

えっと、ね！？依頼の話なんだけど…
その…昨日、宿で寝坊しちゃって…
できなかったんだよね！？

だからさ…

今から行って片付けても…
いいかな？



つまりす：時間制限が昨夜までってのは
分かってるんだけど！

それをなんとか今すぐ片付ける方向にしたら
どうかなって！

その：ね？そんな大金のデニ出して
頼むくらいなら、めっちゃ大事な依頼
でしょ？

とりあえず依頼を片付けて
あげたらどうかなって！



まあ、もちろん報酬は受け取ら
なくていいから！

完全に私のミスだし、今回の依頼は
タダでやってあげるよ。

考えてみてよ、無料でウチらを
使えるチャンスなんてそうないじゃん？

だから、今回の依頼だけはタダで！



あ：ほんと：！
なんで気持ちよく寝坊
してたんだよ、私。

しかも子供でもないのに
ベッドで：
失礼しちゃって：。

とにかく、今はそんなこと
どうでもいいんだ。

違約金の話が出る前に、
早く依頼を片付けなきゃ！



え！？時間制限過ぎたから契約通り
違約金請求するって？

もう一回考えてよ！
今から行ってますっさと片付けられ
いいじゃん？

そんなに時間差もないよ。

ちゃんと処理してあげるから
ちょっと待ってて！



やばいやばいやばい…
どうしよう…？ どうしよう…？

ウチにそんな大金のデニなんて
あるわけないじゃん…。

今ある借金だけでも毎日ラーメン
すらまともに食べてないのに…。

これ、仲間たちはどうやって
言えば…？



ん？どこに連絡しよう
としてるの？

まさか：治安官じゃないよね？

ね？ただちよっと時間遅れ
ただけじゃん！

そんなことで治安官は
ちよっとないでしょ？

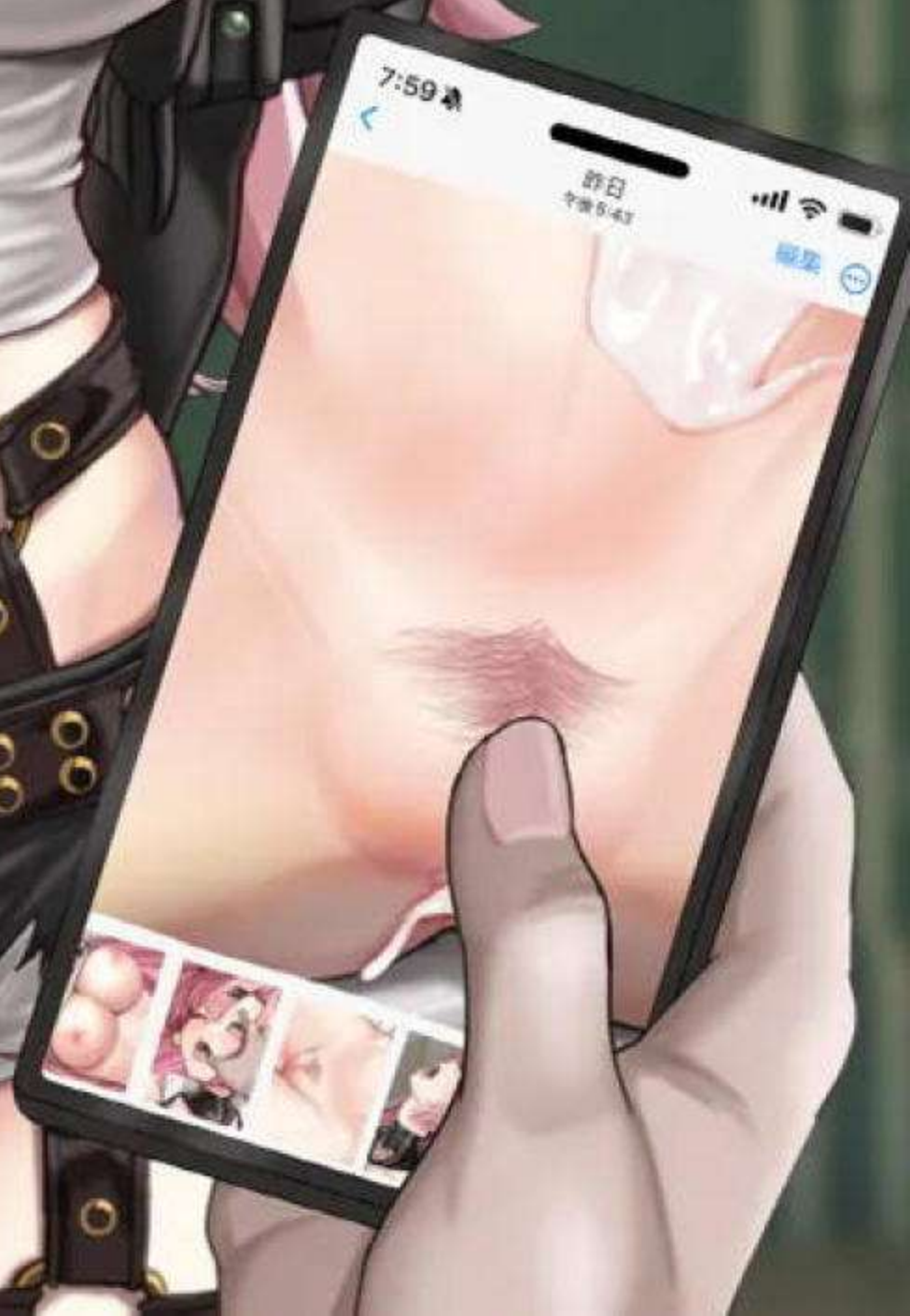


う！今すぐ撮うのはキツイから
記録しとくって？

分かった！
なんとかデニは用意するから！

ちょっと時間くれない？

踏み倒すつもりはないから！

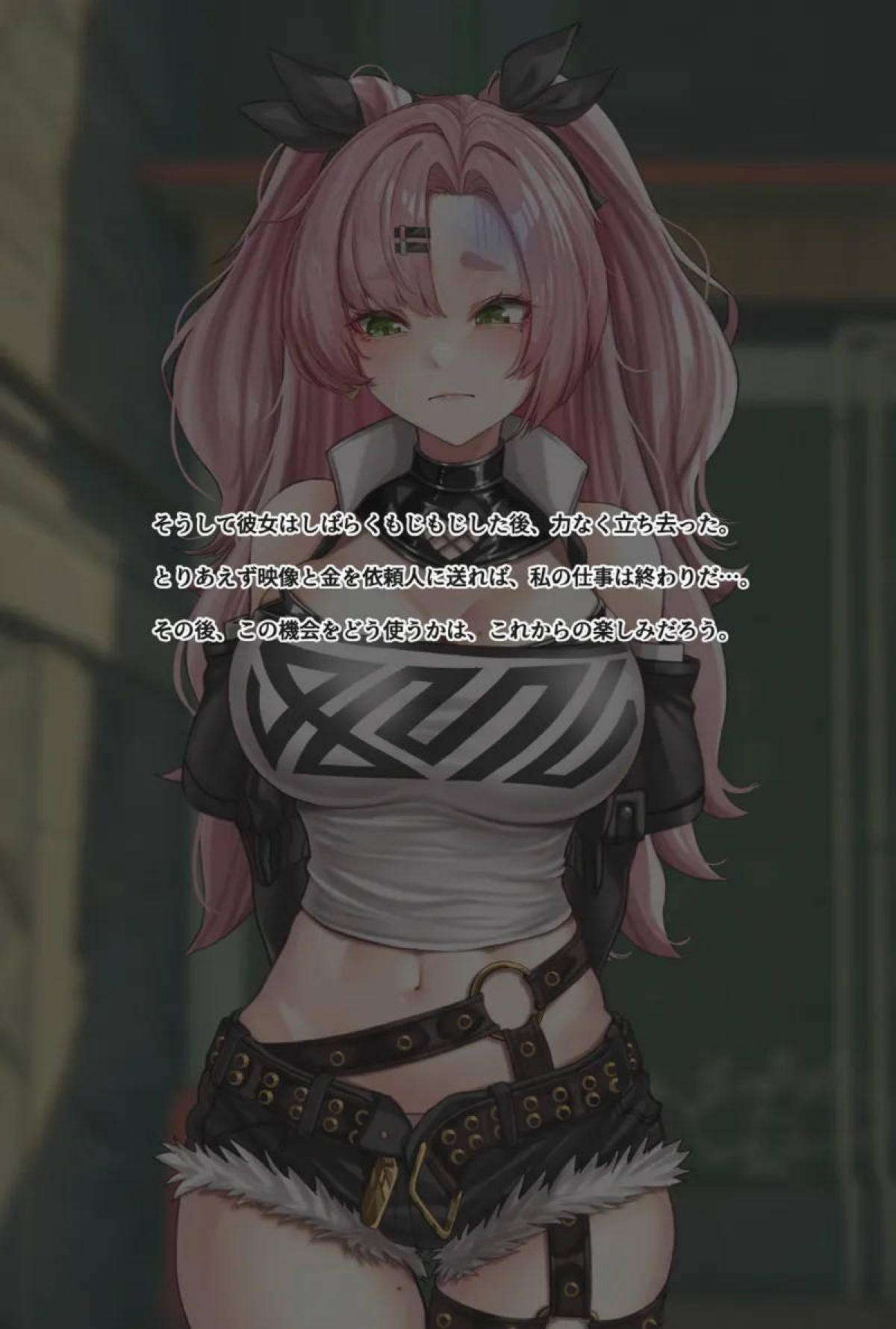


それとさー宿のベッド、ちゃんと
片付けたから、主人にそう言っ
といてよ。

今、行ってもいいよね？

連絡先はもう知ってるでしょ、
なんかあったら
そこに連絡してくれば私が対応
するから！





そうして彼女はしばらくもじもじした後、力なく立ち去った。
とりあえず映像と金を依頼人に送れば、私の仕事は終わりだ…。
その後、この機会をどう使うかは、これからの楽しみだろう。